

【対象面積の海藻類について】  
イソモク、マジリモク、ヒイラギモク、マメタワラが主に見られた。  
ほかに、フクロノリ、ヒロメ、ウミウチワ等も見られた。

【湿重量の計測】  
ツボ狩りは、対象面積の海藻類を代表する海藻が生育する場所（採取場所の生育被度100%）において1m方形枠を設置し、枠内の海藻を採取して重量（kg）を計測した。

【含水比の算出】  
採取した海藻のうち一部の海藻を十分に乾燥させ、重量を測定して乾重量/湿重量より含水率を算出した。

【P/B比の算定】  
横山ほか，1999の文献および採取した海藻の高さからP/B比を算定した



※写真は袋重量0.20kg含む

採取した海藻の状況

単位面積当たりの湿重量：  
逢原St.1：6.01-0.20＝5.81kg/m<sup>2</sup>  
禁漁区：19.15-0.20＝18.95kg/m<sup>2</sup>    12.38×10  
平均12.38kg/m<sup>2</sup>                           ＝123.8 t/ha

湿重量	⇒	乾重量
102.97 g	⇒	21.51 g
219.26 g	⇒	33.79 g

含水率：平均81.84%

【確実性評価について】  
ツボ狩り時において、全面をヘラで綺麗に剥ぎ取ってしまうと翌年に生えづらい為、ある程度の長さを残している。  
そのため、湿重量及び含水比、P/B比に対して過小評価を行っており、吸収係数に係る自己評価を100とする。

【イソモクほか】  
P/B比：1.5